

行政視察報告書

委員会名（会派名）	公明党、新風つばめ	報告者	(公明党) 近藤隆行議員 (新風つばめ) 藤井秀人議員 佐野大輔議員
視察日程	令和6年2月7日～9日		
調査事項 及び 視察地	①兵庫県明石市の子育て政策について ②広島県教育委員会の不登校対策について ③広島市こども療育センター（児童発達支援センター）について ④広島平和記念資料館について ⑤山口県萩市の松陰神社・松下村塾・吉田松陰歴史館 （良寛史料館・長善館史料館の今後の検討のため）		
参加議員（委員）	(公明党) 渡邊 雄三、近藤 隆行 (新風つばめ) 中山 眞二、田澤 信行、藤井 秀人、田中 淑子、佐野 大輔		
①	<p>【調査目的・内容】 11年連続で人口増加している明石市。その要因として明石市の5つの無料化に代表される、独自の子育て政策が上げられる。その中でも今回は、「おむつ定期便」、「離婚後のこども養育支援」について話を伺ってきた。</p> <p>【所感】 「おむつ定期便」は、見守り支援員(配達員)が赤ちゃんと保護者に会って、紙おむつなどの赤ちゃん用品(3000円分)を毎月無料で届ける支援で、生後3か月から満1歳の誕生日まで毎月配達される。赤ちゃん用品が無料でもらえることもさることながら、配達員が子育て経験者で、子育ての悩みを気軽に相談できるという見守り支援にもなっている。不安定な家庭を事前に察知し、市に報告したりと、見守りも機能しっかり果たしていた。見守り支援員に民間企業を活用していることも、上手い手法だと感じた。</p> <p>「離婚後のこども養育支援」については、こどもを社会全体で守り、健やかに育てていく視点から、離婚や別居に伴う養育費や面会交流などの「こどもの養育支援」について、平成26年4月から「明石市こども養育支援ネットワーク」の運用を開始し、支援に取り組んでいる。</p> <p>前市長の弁護士時代の経験もあり、推進されたようである。</p> <p>ここまで自治体が入り込むのかという部分はあるが、子どもの立場になった時、より子どもの権利を守るのに必要なことなのかもしれないと感じた。また、弁護士資格を有する人を市職員として採用するというのも驚いた。</p> <p>明石市内にある「あかしこども広場」も立ち寄った。</p> <p>ビルの5階がすべて子育て関連施設となっており、幼児から中高生まで利用できる施設となっている。</p> <p>また、このビル自体を市が所有しており、民間テナントも入っているが、6階はこども健康センター、市役所総合窓口、4階は市民図書館と、市のサービスがビルに集中しており、非常に利便性の良さを感じた。</p> <p>また、子育て家族がいろいろなサービスや、手続きをするのに、いろんなところに出向く苦労も少なく、そういう意味での子育てしやすい環境作りへの配慮を感じた。</p>		

【調査目的・内容】

不登校支援における先進地として、広島県は市町村と一緒に様々な取り組みを展開されており、それらの各政策についてお聞きするとともに、燕市の適応指導教室のあり方や不登校対策のあり方について検討する。

【所感】

まず、広島県教育委員会では、学びの変革推進部ということで、課名も「個別最適な学び担当」という部署を設置し、その中で人材育成と合わせて不登校支援センターを設置し対応しており、組織として取り組む姿勢からも他の自治体とは全く違うアプローチの仕方をしていた。

その上で、広島県では、不登校の未然防止や社会的自立に向けた支援として5つの取り組みを実施しており、それらについて細かく説明していただいた内容が下記のとおりである。

①不登校SSR推進校への支援

不登校児童生徒の支援を目的に、2019年度から県内の公立小中学校に設置を始めた「スペシャルサポートルーム」は、昨今全国に広がりつつある校内フリースクールの先駆的事例。

教室に行けない児童生徒の支援を県としても推進校を決めて対応しており、担当教員を加配措置したり、教室の環境整備の補助を出すなど手厚く対応、また県教委の指導主事が定期的に学校訪問を行うなど、学校だけに依存しない形でのサポートを行っている。

ちなみに学校の選定については手上げ方式で行っている。

この学校訪問では学校全体で不登校について対応していくための体制の構築などにも県の指導主事が一緒に入って動いていく、また、SSR自体も学校らしくない教室を目指して受け入れ環境を整え、個別に判定指標などによって状況把握することなどソフト面とハード面でもあり方を検討しながら実施されていた。

②SCHOOL“S”について

広島県が運営している施設で、不登校の子たちが通える施設になっており、児童生徒の秘密基地のような特別な場所として整備されており、一方で、来室による利用だけでなく、自宅や市町村教育支援センターからのオンラインでの利用も可能となっている。

オンラインを使った学びについては①のSSRでも積極的に活用されており、そのことによって普段学校では学ぶことのない、東京国立博物館の学芸員さんであったり、史料館等の学芸員、企業の方などとオンラインでつなぎ、様々な生の声を実際に聞くことで学ぶ機会を確保している点は、参考事例として燕市でも今後積極的な活用を進めていけたらと感じた。

さらに、環境づくりにおいてもPOPなソファなど配置して子どもたちが安心して来れる場所を構築していた。

一番驚いたのが教育内容もさることながら、子どもたちが自分で一時間かけて電車等で通っていたり、テレビの取材に対して普通にインタビューに答えている姿で、親御さんからの理解を得られながらこのSCHOOL“S”が広島県に浸透してきている証だと強く認識した。また、インタビューを受ける子どもたちも楽しそうに話す感じが、子どもにとって良い形の事業実施できている証だと感じた。

③その他

そのほかにも東京大学先端科学技術研究センターと連携したLEARNプロジェクトやフリースクール等の民間団体との連携体制の構築や個別最適な学びセミナーとして発達障害への理解を深めるためのセミナーを開くなど、支援者側のスキルアップも積極的に行っていた。

質疑応答も含めて各議員から広島県教育委員会様と話を進めていく中で、最後に担当の方からこの事業の展開のゴールとしてはSCHOOL“S”がなくなることをイメージに持っているという発言とともに、すべての学校がSSRやSCHOOL“S”のように個別最適な学びに取り組めることが今の学校現場においては重要という認識をお示しいただき、燕市でもまさにこの言葉通りに画一的な教育から個別最適な学びの授業を展開していくことが今の子どもたちにとって重要だと感じた。

【調査目的・内容】

広島市のこども療育センターは療育支援の先進地であり、来年度、坪倉ひふみ先生からも来燕していただき、講演予定などもあり、今回は広島市の療育のシステムと取り組みについてお聞きするとともに発達障がい者支援の方向性をお聞きする。

【所感】

こども療育センターは、広島市の中核施設として、こどもたちの発達とこころの問題について、福祉と医療が一体となって支援しており、支援していくための3つの柱を立てている。

- 1 こどもたちの人権を尊重し、一人ひとりの生きる力をはぐくむ。
- 2 さまざまな専門スタッフが科学的手法のもとに協働してとりくむ。
- 3 地域に密着したセンターとして、他の施設や機関と連絡・調整を行い、きめ細かなサービスを提供する。

今回の視察では、医療型の児童発達支援センターである広島市こども療育センター二葉園の視察を行った。

建物は6階建てとなっており、児童発達支援センター、療育相談所、青少年総合相談センターの分室、心身障害者福祉デイサービスセンター、そして児童相談所も同一の建物に集約されており、障害を抱える地域の方にとっては非常に重要な場所であり、また様々な機能がまとまっていることで、相互に連携できる施設となっていた。

児童発達支援センターもこの建物の中に知的障害のある児童を対象とした福祉型と聴覚障害のある児童を対象とした同じく福祉型、そして今回見学の肢体不自由の児童対象の医療型と3つに分かれていた。

今回は児童発達支援センターについて色々とお見学させていただいたが、定員40名で、上肢・下肢または体幹の機能に障害のある就学前の児童を対象に、作業療法、理学療法、言語療法を行っており、園長は小児科医が勤めており、全部で4名の医師が病院勤務と合わせて交代で対応に当たっておられた。

- ③ また、それ以外に、保育士20名、指導員2名、看護師5名、理学療法士4名、作業療法士、言語聴覚士各1名のスタッフで運営されていた。

施設については、こどもたちの特性に配慮しスパイダーやトランポリン、手指の動きを図る玩具など様々な器具が設けられていた。

特にトイレについては、利用するお子さんの「できる範囲」に対応した様々な形になっており、できる段階を挙げていく配慮もなされていた。さらには、オムツ等の交換のために寝そべられるための簡易ベッドも大きめのものが設置されていて、個に応じた対応ができるように用意されていた。

また、二葉園は、保護者の方と一緒に通い療育を受ける親子通園の形態をとっており、保護者の方との連携を密にとるとともに、地域の中でこれからもこどもたちが育っていくことを念頭に見学当日も保護者の方が来ていて、お母さん同士の交流の時間も設けられており、単に発達の指導をしてだけでなく、地域の中で生きるということも念頭においたセンター運営をされていた。

政令指定都市ということで一概にこの施設のような場所を設置するということは燕市では非常に難しいと感じるが、一方で、現在、燕や県央医療圏ではこういった施設がないということも含めて、生まれた場所で不利益が起きないようにという観点からも一市で難しければ広域でこういった施設を作る仕組みづくりも必要と感じた。

【調査目的・内容】

燕市では、毎年、市内の中学生を対象に8月6日の広島平和記念式典に合わせて派遣を行う事業を行っており、その際に平和記念資料館や平和記念公園などを来訪しており、事業の有用性検討のために史料館及び平和記念公園を視察する。

【所感】

私自身(佐野)、今回で3度目の広島平和記念資料館だが、何度訪れてもやはり原爆の恐ろしさや衝撃は本当に自分自身の心を抉るように届いてきた。

一つ一つの展示が全て本物の原爆の状況下で犠牲になった方々の遺物が展示されており、さらには、派遣される中学生と同世代の原爆の被害にあった方々が生前どのように思い、どのように生活してきたのか、原爆前後の様子を対比して中学生もしっかりと学ぶことができること場所と再認識できたことも含めて、改めて戦争について考えるいい機会となると感じた。

④ そこから自分に何ができるのか、「平和の尊さ」という言葉だけでいうと、薄っぺらく感じるが、その本当の意味が真に体にのしかかってくるような体験ができる場所として平和記念資料館への訪問は大事な取り組みと感じられた。

だからこそ式典に派遣し、その上で平和記念資料館を見たり、語り部の方からお話を聞いたり、灯籠流しを現地の広島で行う意味はあり、これからを担うっていく子どもたちにとってこの体験は本当に貴重で事業の有用性を改めて感じた。

合わせて、毎回、派遣後に一般市民向けや学校内でこの体験について自分なりにまとめて発表する報告会があるのですが、そこでしっかりと体験を自分の言葉で発表している中学生の子たちの凄さを改めて感じた。

資料館見学後には、原爆ドームを間近で見学したり、原爆の子の像や原爆死没者慰霊碑を見て周り、平和を祈るとともに、この事実をどう捉えていくのかを問われている気もするくらい、圧倒的な存在感を感じ、あらためて来年度以降も中学生の代表を広島に派遣し、その思いをぜひ一般の方や中学校にて報告する中で発信していただきたいと感じた視察見学となった。

【調査目的・内容】

吉田松陰の志を継ぐ維新志士たちを数多く輩出した私塾。長善館は、大漢和辞典の著者である諸橋轍次博士から「西の松下村塾、東の長善館」と並び称された。現在、移転等の検討が行われている良寛史料館の参考にするとともに、長善館史料館の参考に松下村塾の視察をおこなう。

【所感】

山口県萩市にある「松陰神社・松下村塾」を主体に視察を行った。

萩市内の一角に古い松林に囲まれたところに、松陰神社・松下村塾があり、別世界にタイムスリップしたかのような錯覚を感じるような厳かな場所で、視察中も多くの方が見学に来られていた。

⑤ 説明するまでもなく、明治維新を導いた大先輩を育てた吉田松陰の関係する建物が集約されており、残念ながら、安政6年(1859年)安政の大獄により、30歳で処刑された、吉田松陰は残念ではあるが、門下生が新たな時代を切り開き、その後山口県から歴代総理大臣8名を輩出した功績は極めて大きいと感じられる展示が随所に設けられていた。

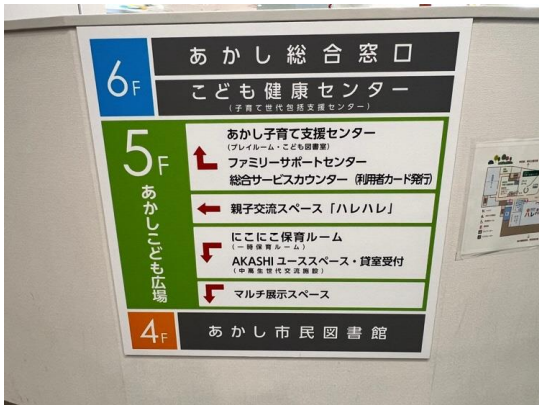
また、萩市としても、世界遺産、明治日本の産業革命遺産の構成資産として、松下村塾が登録されており、コロナ前は人口43,000人の市に年間450万人前後の観光客が訪れており、歴史と町並みが融合された市であると再認識できた。

さらに、今回は萩市の観光協会の方に依頼し、松陰神社や松下村塾の場所をまわる際にガイドをしていただいたが、イヤホンでの説明で、当時の情景や説明文では知ることのできない補足情報なども説明の中でお聞きすることができ、ただ場所を作るだけでなく、それをどのように案内するのかなど観光分野との連携も非常に重要ということを改めて認識することができた。

これらの点もただ施設を作っていくだけでなく、どう伝えるかという観点もしっかりと計画を作っていく中で重要な要素の一つであり、展示や解説、全体のランドスケープも含めて、どのように作り込んでいくのかという意味で、今回の視察は、移転後の良寛資料館のあり方の検討及び長善館史料館の今後の検討にとっても参考になる見学となった。

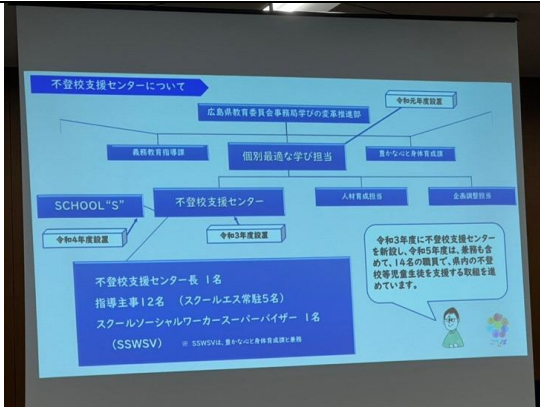
【視察の様子】

①兵庫県明石市（視察と合わせて「あかしこども広場」の見学も行った）



②広島県（不登校支援）





オンライン学びプログラム つながろう with 海外 2023 第1弾

「つながろう with 海外」は、海外の子どもたちとオンラインでつながり、一緒に学び、交流する機会を提供するプログラムです。

第1回 (3月16日) 第2回 (3月23日) 第3回 (3月30日)

第1回 (3月16日) 第2回 (3月23日) 第3回 (3月30日)

第4回 (4月6日)

参加費 無料 (送料は別途お支払いください)

申し込み 2023年3月16日(木) 15時迄

申し込み先 広島県教育委員会事務局学びの政策推進部

③広島市 (こども療育センター)



- 5
 - ・広島市社会福祉事業団 児童発達支援事業
 - ・広島市こども療育センター 管理課 相談室
 - ・広島市青少年総合相談センター(分室)
 - ・広島市児童相談所
 - ・広島市知的障害者更生相談所
- 3
 - ・広島市こども療育センター 相談室(小児科、精神科、整形外科、耳鼻咽喉科) 発達支援室
- 2
 - ・広島市児童発達支援センター
- 1
 - ・広島市こども療育センター 広島駅前 理学療法室 作業療法室
 - ・広島市こども療育センター 二葉園

④広島平和記念資料館・平和記念公園





⑤松下村塾・松陰神社



